

令和 7 年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

『健やかな体・豊かな心』 ・元気な子 ・やさしい子 ・素直な子 ・ねばりづよい子

2. 本年度の重点目標

『 関わり つながり 育ち合うならの実つき 』
～みんなで探そう「やってみたい！」があふれる環境づくり～

3. 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・園内研修において、計画的に保育を見せ合う機会を実施し、保育教諭間で意見交換を行うことで、実践的なスキルの向上を図った。全職員が交代で参加できる体制を整え、学びを共有することができた。業務の都合で参加できなかった職員への動画活用や時間調整などを検討し、今年度の実践を次年度も継続させていく。 ・園務分掌を割り振り、分担を明確化することで全職員が意識して取り組むことができた。各部会が出てきたことを見直し、改善していくことも大事ではないかと考え、学期ごとや中間時期に見直し、振り返り改善していく。	A
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・異年齢児や地域の人との交流を計画的に行い、自然な関わり合いがもてる場を機会を逃さず設け、興味関心の芽、思いやりの気持ちをもちように環境や指導を工夫した。 ・一人一人の発達を踏まえ、子どもの実態から身に付けさせたい動きをねらいにもち、園内研修を重ね外部講師に助言を受けながら体系的に運動遊びに取り組んだ。室内、園庭の使用場所や時間配分を考え、遊具をつくり、組み合わせたりして子どもが主体的に体を動かしたくなるような環境を工夫した。 ・次年度は今年度の活動を土台にして継続し、更に充実させていくことを目標にする。	A
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・どんぐりくらぶ(未就園親子)では、在園児との交流の場や、園庭開放に加え、誕生会を行い、内容を膨らませて多くの方に参加してもらった。参加者アンケートを基に、ニーズの把握と、活動内容の充実を図る。 ・家庭教育講座は、家庭と園で育む“心身の育ち”というテーマで行われ、園での保育内容、家庭でできる触れ合い遊びの紹介などの情報提供をした。 ・連絡帳の活用、降園時、懇談等で園での様子を伝えたり、悩みを聞いたりする機会をもった。16時以降に降園する園児の保護者とは、園での様子を伝えたり、話をしたりする機会が限られ、情報共有方法の見直しが課題である。保護者との信頼関係を深め、園児の育ちを支える体制づくりを進めていきたい。	B
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底 と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・毎月、様々な状況を想定して、ねらいをもって防犯・防災訓練を行った。その都度職員の行動や子どもへの対応を振り返り、反省し、訓練を重ねることができた。実際の地震が起きた時も日頃の訓練が生かされ、対応することができた。 ・救命講習(AED)、エビベンを用いたシュミレーション講習を行い、緊急時に適切な対応ができるように救命措置について学び、再確認することができた。また熱中症・感染症・嘔吐時のマニュアルなどを共通理解して感染予防を行い、インフルエンザ等の感染症を最小限に防ぐことにつながった。今後も講習や研修を計画的に行いながら、職員間で周知徹底し予防に努めていく。	A
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・昆虫の飼育、野菜の栽培を通して、命あるものを育てる難しさ、喜び、大切にしようとする意識の芽生えなど、様々な感情を味わうことができた。5歳児は育てたい野菜を考え、公共機関を使って苗を買いに行くことを経験し、より“大切に育てる”意識をもつことができた。年齢に応じた命を大切にする指導の工夫を行った。 ・研修から、自分・相手の命の大切さ、性に関する教育の重要性を学び、保育を行った。プライベートゾーンの話など、年齢に応じた性教育を大切にしていきたい。 ・園児一人一人を大切な存在と捉え、保育教諭等の温かい関わりや声掛けを心掛け、保育に取り組んだ。園児の発達段階に応じた保育教諭等の指導力や環境の工夫などを高めるための研修などに励んでいきたい。	B
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・専門機関に園訪問を受け、発達の状況や支援方法について専門的視点から助言を受け、実践につなげた。また、専門性向上を目指し、研修会にも積極的に参加した。 ・支援部会の開催時間を早め、多くの職員が参加できるようにし、週1回行うことで、情報共有を密にして、一人一人の特性や発達課題に応じた支援を深めることができた。 ・専門機関、研修会、支援部会においての情報共有については不十分なところもあり、園全体で情報共有する機会をもつよう考えていく。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・外国籍児やその家族とのコミュニケーションは翻訳アプリや絵カードを使用して対応した。お便りは電子化(配信)にし、内容や写真の見えづらさを改善した。 ・園の保育活動にご協力いただくならのみりあげ隊」を立ち上げ、保護者や祖父の参加があった。遠足の引率やツッキングの補助、伝承遊びを教えるってもらうなど保育活動が豊かになり深まった。参加人数を確保するため、内容を早く周知し募っていくようにする。 ・幼小交流において就学予定の小学校から教諭を招き、公開保育を実施した。事後の意見交換では、遊びの中に「10の姿」が具体的にどのような姿と表れていくかを共有した。この活動を通じ、幼児期の教育と小学校教育をつなぐ「学びの連続性」の重要性について、共通認識をもつことができた。	B

園 名 加西市立北条ならの実こども園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

○評価については適切と判断します。
○保護者アンケートの「わからない」の項目についてどう捉えるか、判断ができないのは見えない判断しかねるということでもある。保護者の方に園のことを知ってもらふこと、そして、どう伝えていくか情報発信の仕方を考え、次年度への取り組みにいかしていってもらいたい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・各年齢、各クラスごとの課題や目的は異なると思われるが、保育教諭間の連携により、資質向上が行われていることを感じる。次年度も期待している。
・子どもは外で元気に遊んでほしい。 ・体をいっぱい動かして遊ぶ環境づくり、異年齢児や地域との交流、および、子どもの主体的行動(考動)に向けた環境づくりを継続して行ってほしい。 ・北条ならの実は、幼小の交流、特別支援教育、子どもの主体性を育む教育に力を入れ、充実しており、園の強みと言える。園の独自性を大事に、入学前の大事な時期の教育に更に取り組まれたたい。
・保護者との信頼関係は保護者アンケートからも、保たれていると感じる。 ・どんぐりくらぶ(未就園親子)の毎回多くの参加があることから見て、園の雰囲気がいからたくさん来られる。誕生会や園児と一緒に遊ぶ活動もよいと思う。魅力がないと継続しては来れないものです。この園に入園したいと思えるよう、選んできてもらえるよう継続して行ってほしい。
・感染症の対策がしっかりなされている。広がるまでに、先生たちが子どもの体調の変化や今日のパフォーマンスはいつもと違うなど、いち早く気づき、子どもも早く休めて、早い回復につながるなど、対応と配慮が行き届いていると感じる。 ・16時以降の保護者との情報共有は、働き方改革もあり、難しさはあることはよくわかる。上手にICTを活用していき、知ってほしい情報をタイムリーに、短い文章でもいいので、配信していくなど伝え方を工夫していくことが大切である。すべての保護者に平等に伝えることになる。デジタルも大いに活用して配信していく方法を検討していくのがよい。
・PTA役員アンケートにおいても、生命を尊重し、社会ルールを守る指導がなされていると評価されていると感じる。命を大切にする教育活動が展開されているが、評価はBとなっている。まだまだこれから伸びしろがあるということとBと判断したと捉える。心に余裕のない日もあるだろうが、一人一人の子どもを大切にしていって、命を大切にしていって実践に日々取り組んでいってもらいたい。
・保護者の方からも特別支援教育はとても手厚いと聞く。子ども一人一人を大切にしたい特別支援教育がなされていると評価する。
・お便りの配信化は、見返したい時に探したり、わかりずらさがあるため、タイトルをつけると解消されるのではないかと、決まったことや変更内容はその都度、保護者へ情報提供していくよう努めていってほしい。 ・「ならのみりあげ隊」では、今後、早めの周知と、周知方法の工夫をすること、また、地域の方で得意なことを持っておられる方に来ていただくなど、内容も考えたり、小学校に来られている地域の方とつながっていくなど小学校とも連携したりして、検討が大事である。 ・「学びの連続性」はとても大切なことで、幼児教育からスタートしている。一人一人に合った教育、幼児期からの教育の大切さを感じる。引き続き、小に向けた「学びの連続性」を意識した幼児教育に取り組まれたたい。